

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24560785

研究課題名(和文) 中井家所蔵資料の公開と中井家歴代の事績をまとめた『新・中井家系譜』の編纂

研究課題名(英文) The exhibition of drawings and documents of Nakai family possession, and a compilation of "Nakai family genealogy".

研究代表者

谷 直樹 (Tani, Naoki)

大阪市立大学・大学院生活科学研究科・客員教授

研究者番号：40159025

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：中井家は、江戸時代に幕府の京都大工頭を歴任した家柄である。本研究は、中井家の歴代の業績をまとめた『中井家系譜』を編纂した。その結果、江戸時代初期から末期までの歴史を以下の5期に区分できた。

中井家の草創期(初代正清)、中井家の拡充期(2代正侶、2代後見役・利次、3代後見役・正純)、中井家の転換期(3代正知)、中井役所の時代(4代正豊～8代正平)、中井役所の解体期(9代正路～10代正居)に特徴づけることができた。また、大阪市立住まいのミュージアムで特別展を開催して建築絵図と古文書を公開し、図録を発行した。

研究成果の概要(英文)：Nakai family was appointed by Kyoto master carpenter of the Shogunate in the Edo Period. This research gathered achievement of Nakai family and compiled "Nakai family genealogy". As a result, history from the Edo Period beginnings to the last years could be divided into the following 5 periods. Pioneer days of Nakai family (1600-1619), Expansion period of Nakai family (1619-1648),

Turning point of Nakai family (1648-1710), Nakai government office (1710-1849), Dissolution period of Nakai government office (1849-1870). An exhibition was held in Osaka museum of Housing and Living, drawings and documents were exhibited and a picture book was published.

研究分野：建築史

キーワード：日本建築史 近世 大工 中井家 大工頭 中井家資料

### 1. 研究開始当初の背景

大工頭中井家は、江戸時代に五畿内及び近江の6カ国大工を支配し、同国内における公儀造営の設計・施工を家職としていた。公儀造営の建物は、城郭・内裏・幕府の出先機関、そして由緒のある代表的な寺社であった。このように、近世を通じて上方の建築界を主導した中井家の解明は、近世建築史の重要な研究テーマである。

中井家が作事に関与した建物遺構は国宝20棟を数え、近世国宝建築のうち3割を占めており、その造形的・技術的な評価は極めて高い。

中井家に関する先行研究は、おもに建築史の分野で大きな蓄積があり、京都御所、二条城など個別の建物の造営に関する研究、初代中井正清の業績に関する研究、中井役所の成立と役割に関する研究、中井家配下の6カ国大工組の研究などが知られている。

中井家関係の資料は、現在、宮内庁書陵部、京都府立総合資料館、京都大学、そして中井家の13代当主である中井正知家の4か所に分蔵されている。本研究は、このうちの中井正知氏の所蔵資料(以下、中井家所蔵資料とする)は、平成18年に大阪市立住まいのミュージアム(大阪くらしの今昔館)へ搬入し、科学研究費や住総研の補助などを得て資料整理を進めてきた結果、『大工頭中井家関係資料総目録』(7,567点)が作成でき、その全貌を明らかにすることができた。2011年6月、その内の近世分5,195点が国の重要文化財(歴史資料。指定名称は「大工頭中井家関係資料」)に指定された。同資料は、現在、大阪市立住まいのミュージアムの寄託資料として厳重に保管されている。

### 2. 研究の目的

近世建築史の重要な研究テーマである中井家の研究の内、初代正清に関しては多くの研究蓄積があるが、2代目以降についての研究は多くはない。わずかに、城戸久氏による文化10年(1813)『中井家系譜』の翻刻(私家版)や、平井聖氏の『中井家文書の研究 内匠寮本図面篇』(中央公論美術出版社刊)などが知られているに過ぎない。

そこで、本研究では、中井家所蔵資料をもとに、これまで等閑視されてきた中井家2代から幕末の10代に至る歴代の事績をまとめた『新・中井家系譜』を編纂し、近世における上方の建築界の全体像を提示することを目的としている。併せて、未公開の中井家所蔵資料の公開環境を整備し、中井家研究の総合的な発展に寄与したい。

### 3. 研究の方法

本研究は、【A】中井家所蔵資料の公開、【B】中井家歴代の事績をまとめた『新・中井家系譜』の編纂からなる。【A】の中井家

所蔵資料の公開は、大阪市立住まいのミュージアムの収蔵庫に原本を保管し、文書・記録類や指図・絵図類などを公開するために、同館において企画展を開催し、図録を制作して、国民に広く公開する。

【B】の『新・中井家系譜』の編纂は、江戸時代を通して大工頭の地位にあった中井家の全史をまとめる研究である。その方法は、文化10年(1813)の『中井家系譜』を基礎資料として、中井家所蔵資料と校合し、明治維新までの記事を追加する。さらに同時代の一次資料を渉猟して、中井家の歴史を編年的にまとめる作業である。具体的には「中井家の草創期」「中井家の拡充期」「中井家の転換期」「中井役所の時代」「中井役所の解体期」に区分し、当時の建築社会と関連させながら考察する。

### 4. 研究成果

#### 【A】中井家所蔵資料の公開

大阪市立住まいのミュージアムの収蔵庫に原本を保管し、文書・記録類や指図・絵図類などを整理した。公開については、ミュージアムの体制もあるので、当面は企画展の開催と図録の制作を通して国民に広く公開することとし、また他の博物館への資料貸出を行うこととした。

科研の期間に、大阪市立住まいのミュージアムの企画展示室で行った展覧会は、「重要文化財 中井家伝来茶室起こし絵図展 江戸時代のペーパークラフト」(2013年3月9日~4月7日、担当:新谷昭夫 住まいのミュージアム副館長) 特別展「大工棟梁中井大和守がみた大坂の陣 方広寺鐘銘事件から大坂落城まで」(2014年11月23日~12月21日、担当:谷直樹)である。なお、特別展「天下人の城大工 中井大和守の仕事」

(2015年4月25日~5月24日、担当:谷直樹)は、科研の期間内に展示図録の出版を行い、展示準備をした展覧会である。

また、中井家資料の貸出先は、江戸東京博物館(展覧会「二条城展」:2012年7月28日-9月23日) 大阪歴史博物館(展覧会「天下の城下町」:2013年2月2日-3月25日) 彦根城博物館(「天下普請の城・彦根城」:2013年10月25日-11月26日) 名古屋城(展覧会「巨大城郭・名古屋城」:2013年10月12日-11月24日) 大阪城天守閣(展覧会「浪人たちの大坂の陣」:2014.10.11-11.24)である。

この間、文化庁の補助を得て、指図・絵図類の修理を順次実施している。修理を終了したものは、二条城、淀城、江戸城、水口城、龜山城、清水寺、知恩院、方広寺、北野天満神社、茶室起こし絵図(一部)である。今後、大坂城、名古屋城、永原御茶屋、伊庭御茶屋、小浜城、中井正清・中井正知肖像画などの修理を予定している。

【B】中井家歴代の事績をまとめた『新・中井家系譜』の編纂  
中井家の系譜は以下の通りである。

中井正吉	中井正清	中井正侶
(後見：中井利次)	中井正知(後見：中井正純)	中井正豊
中井嘉基	中井正武	中井正紀
中井正平	中井正路	中井正居

丸括弧の数字は当主の順

(1) 中井家の草創期(1600 - 1619)

慶長～元和期)

- 中井正清(まさきよ 1565 - 1619.1.21): 中井家初代。中井正吉の子。藤右衛門。1606 従五位下・大和守、1609.10.4 知行高 1000 石、1612.12.11 従四位下。
- ・徳川家康の側近として、駿府、江戸、京都を往復し、幕府の公儀作事を一手に担当し、従四位下という大工としては異例の出世を遂げる。
  - ・伏見城、二条城、江戸城、駿府城、名古屋城の造営を担当する。これらは当代一流の城郭ばかりであった。
  - ・内裏など御所(慶長度)の造営を担当する。こののち、中井家歴代の当主は、御所の造営には必ず参画する先例となった。
  - ・徳川家の菩提寺である知恩院、増上寺の造営を担当する。
  - ・豊臣秀頼を施主とする方広寺の造営を担当する。これは、父の正吉が秀吉の方広寺創建時に棟梁司を務めたとの後世の記録もある。
  - ・公儀作事は複数の工事が同時並行的に進むことがあり、作事現場の工程監理や大工の配置などを総合的に行っていた。
  - ・大坂の陣の発端となった鍾銘事件に関与し、冬の陣では配下の大工を動員して家康の陣屋建設、鉄楯の製作や大筒の土台構築に活躍した。
  - ・大坂の陣の終結、徳川家康の没後も、久能山東照宮、日光東照宮(元和度)の造営を行う。

(2) 中井家の拡充期(1619 - 1648)

元和～慶安期)

- 中井利次(としつぐ 1580 - 1626.1.15): 中井正吉の弟・正利の子、中井正清の従弟。五左衛門。1610.6.11 信濃掾、のち従五位下・信濃守、伊豆守。
- ・利次は、中井正清の知行 1000 石の内 100 石を分領し、「大和守名代御作事御用相勤」とあって、正清を補佐し、作事の監理を行っていた。
  - ・利次は、正清の没後(1619)、嫡男の正侶が若年であったことから、その後見役を務めた。
- 中井正侶(1600～1631): 中井家 2 代。正清の嫡男。長吉郎、正似。1627.11.11 従五

位下大和守。知行 1000 石。

- ・元和・寛永年間に行われた江戸城(元和度)天守、二条城行幸御殿、同天守(寛永度)大坂城(寛永再築)の造営を担当。
  - ・将来を囑望されたが 32 歳で病死(1631)、中井家断絶の危機を迎える。
  - ・正侶には実子がなく、中井家の 3 代は生後間もない従弟の正知(幼名長三郎)が継ぐが、幼年のため実父の中井正純(正清の弟)が後見役を務める。
- 中井正純(まさずみ 1594 - 1654.4.13): 正清の末弟。五郎助、正行。1641.1.26 従五位下大和守、1648 年、隠居して内匠頭。
- ・正純は正清の下で重要な作事に参加し、大工技術を身に付ける。
  - ・水口城、永原御茶屋、伊庭御茶屋、小浜城天守の造営。
  - ・寛永度内裏の造営。
  - ・高野山大塔の造営。

(3) 中井家の転換期(1648 - 1710)

慶安～宝永期)

- 中井正知(まさとも 1631 - 1715.4.26): 中井家 3 代。正侶の養子で正侶の伯父・正純の子。長三郎、正朝、浄覚。1654.3.11 従五位下大和守、1659.2.5 主水正に改め。知行 500 石 40 人扶持。
- ・1648 年、家光への御目見得から 1710 年に 80 歳で隠居するまで現役。中井家中興の祖。
  - ・江戸時代の 8 回の内裏造営のうち 4 回(承応度・寛文度・延宝度・宝永度)を担当。
  - ・長谷寺本堂、祇園社本社、泉涌寺仏殿、多田院などの造営。
  - ・中井家の財政困窮を打開するために奔走し、1693 年に公営の中井役所が成立。
  - ・中井家文書の整理を実施(家職の継続に貢献)。中井家の相続に関する書状を残す。
  - ・養母正雲(中井正侶の妻で、御用呉服師後藤氏の娘)の役割が大きい。
  - ・茶人としても名を残す。

(4) 中井役所の時代(1710 - 1848)

宝永～弘化期)

- 中井正豊(まさとよ 1682 - 1735.1.25): 中井家 4 代。正知の弟の子、正知の養子。内之助、徳純。1710.12.11 中井家を継ぐ、主水。
- ・1709 年に山村与介として住吉大社の宝永度造営を御大工として担当。
  - ・1710 年、大坂城大工の山村家から中井家を相続。
- 中井嘉基(よしもと 1709 - 1750.6.23): 中井家 5 代。正豊の子。均任、藤三郎、主水。1735 年、中井家相続。
- 中井正武(まさたけ 1734 - 1788.11.25): 中井家 6 代。嘉基の子。藤三郎、主水。1750 年、中井家相続。
- ・禁裏・仙洞御所、二条城、所司代屋敷、山門、下上加茂社、知恩院、石清水八幡、泉涌寺の修復。

中井正紀（まさただ 1768 - 1818.9.26）：  
中井家7代。正武の子。藤三郎。1789年、  
中井家相続。

・1790年、復古様式による内裏（寛政度）の  
造営。

・二条城、所司代屋敷、諸役宅、諸橋、泉涌  
寺、知恩院、山門、下加茂社、貴布祢社の  
修復。

中井正平（まさひら 1785 - 1849.4.26）：  
中井家8代。正武の子、正紀の養子。岡次  
郎。1818年、中井家相続。

（5）中井役所の解体期（1848 - 1870  
嘉永～明治期）

中井正路（まさみち 1815 - 1861.5.24）：  
中井家9代。正平の子。小膳。

・1855年、内裏（安政度）の再建。

中井正居（まさおき 1835 - 1900.5.18）：  
中井家10代。正路の養子（娘婿）。保三郎、  
主水。

・明治維新前後の動向。

・1867.12 明治新政府より「五畿内近江六  
カ国大工・杣・木挽組三職支配及び出火消防方」  
を継続。

・1868.2 修理職（のち営繕司）に任命。

・1869.1 営繕司知事として東京参向。東京  
城内侍所仮殿造立・御座所向修復

・1869.3 大工・杣・木挽組解散。大工頭の  
解任と中井役所の解体。

・1870.12 中井正居は諸陵寮から御陵衛士  
に任命。宮内省から清和天皇陵の陵掌に任  
命。

## 5．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に  
は下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

堀田圭吾・谷直樹、重要文化財「大工頭  
中井家関係資料」絵図・指図の修理と収  
納、大阪市立住まいのミュージアム研究  
紀要・館報、査読無、12巻、2014、32  
- 37

〔図書〕（計1件）

中井正知・谷直樹・山本美紀、大阪市立  
住まいのミュージアム刊、天下人の城大  
工 中井大和守の仕事、2015、128

〔その他〕

ホームページ等

大阪市立住まいのミュージアム（大阪くらし  
の今昔館）HP

<http://konjyakukan.com/>

## 6．研究組織

(1)研究代表者

谷 直樹（Tani Naoki）

大阪市立大学・大学院生活科学研究科・  
客員教授

研究者番号：40159025